

令和7年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立神戸小学校				
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上×ICT活用	①授業改善・基礎学力の向上 「主体的に学びに向かう子の育成」の視点に立った授業改善。自分の考えを伝え合う対話的な活動を通して」研修を推進する。学校アンケートで検証。			
	②授業でICTを活用する 教員はICT支援員による研修を受け、ICT活用指導力を向上する。児童は、スライド作り・ドキュメント作り・家庭学習にICTを取り入れるなどし、ICT活用能力を高める。学校アンケートで検証。			
長期欠席対策	③家庭学習の充実 家庭学習の手引きを配布し、啓発を行う。また、毎学期に家庭学習強化週間を設定する。家庭学習チェックシートで保護者のコメントから検証。			
	④読書活動の充実 学校図書館・学級文庫の環境整備。図書委員・ボランティアによるイベント。巡回図書を活用。毎週月曜日に朝読書の時間を設定する。学校アンケートで検証。貸し出し冊数の検証。			
	①全欠児童については、支援会議や家庭訪問を通し、常に児童について把握、情報共有を図る。放課後（1週間に1回程度）本人や保護者が来校し担任とつながる。			
	②登校渋りが見られたり、遅刻・欠席が多い児童を把握したりするとともに、その理由をアセスメントし、明確な理由がなく3日以上続けて欠席がある場合には家庭訪問を実施して家庭訪問シートにまとめ、情報共有を行う。また、週1回の特別支援教育コーディネーター会議での情報共有を行う。			
	③30日以上欠席児童数を減らす。不登校傾向にある児童については、生徒指導部の不登校担当と特別支援教育コーディネーター、SLSが連携して対応に当たる。			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
地域連携	①学校ボランティア活動の活性化 ・ボランティア担当、地域コーディネーターが窓口となり、地域学習や出前講座などに学校ボランティアを活用する。 ・学力向上、学習支援、児童への細やかな対応に向け、新たなボランティアの募集と活用を図る。 ・学校、家庭、地域と連携した見守りで、児童の交通事故ゼロを目指す。 ②情報提供の充実を図る ・学校ホームページ、学校だよりの地域配布による情報提供を主とし、学校だよりに学校ＨＰのＱＲコードを掲載することで、ＨＰ閲覧の機会を増やす。月間1部以上の発行を目指す。 ・学校の活動や児童の実態をより具体的に知っていただくため学校運営協議会委員の２学期に参観の機会を設定する。 ☐☐☐☐☐☐☐☐			
非認知能力育成	「自己肯定感」「達成感」を高める ・授業の中で、達成感をもたせられるように授業づくりから計画する。 ・学年通信や学校だよりで、人権学習の取り組みや、学校アンケートの結果を伝え、家庭、地域へ発信する。 校内アンケートで検証。			
特別支援教育	①子ども・保護者への対応 ・家庭訪問や個別懇談を行い、保護者と連携した支援を推進する。 ・特別な支援が必要な児童について、「すずっこファイル」を学期ごとに作成し、学年末には評価・考察を行う。（作成率100%） ・支援ファイル保持者について、必要に応じて月ごとに経過・変容を記録を書き留めていく。 ②学校の対応 ・特別支援教育コーディネーターを４人配置し、週1回情報共有や今後の方針を検討する会議を開催する。必要に応じて会議に助言者を招く。 ・特別支援教育コーディネーター等が校内を巡回し、支援の必要な児童の把握及び適切な支援方法の提案を行う。 ・推進委員を各学年から１名選出、校内推進委員会を各学期に２回開催する。 ・支援会議を随時開催し、情報共有や今後の方針の検討を行い、学年、通級指導教室、保健室、特別支援学級等での迅速な対応を促進する。 ・スクールライフサポーター、スクールカウンセラーを活用する。 ・特別支援教育に係る校内研修を実施する。（年1回以上） ・すくすくルーム、特別支援学級の授業参観を行う。（年1回以上）			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点